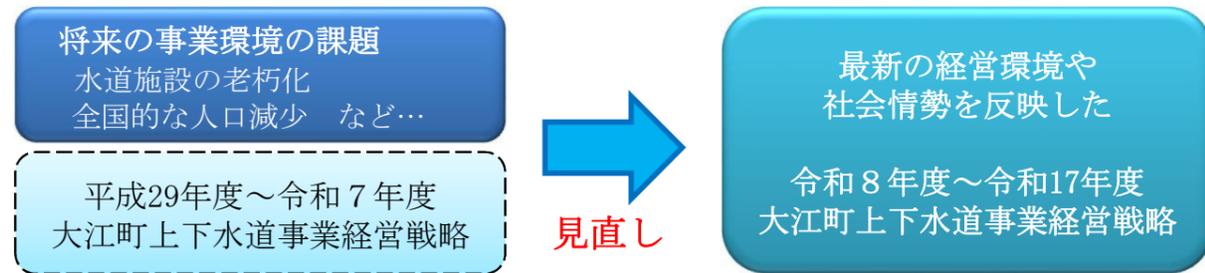


第1章 経営戦略改定の要旨

- 経営戦略は、公営企業の安定的事業継続を目的として策定する経営の基本計画である。
- 経営環境や社会情勢を反映し、「大江町上下水道事業経営戦略」を見直し全面改定を実施した。



第2章 水道事業の概要

- 経常収支比率は比較的健全に推移しているが、料金回収率が100%を下回っており給水に係る費用の一部が収益以外の繰入金等から補填されていることから経営基盤を強化する必要がある。
- 施設利用率及び有収率は県内類似団体よりも比較的高水準だが、有収率が90%以下で推移しており施設の効率的な利用や漏水対策を実施していく必要がある。
- 県内類似団体と比較して有形固定資産減価償却率は差異が無いのに対して、管路経年化率が20%程度高い水準にある。老朽化が進行傾向にあるため計画的な修繕改築が必要である。

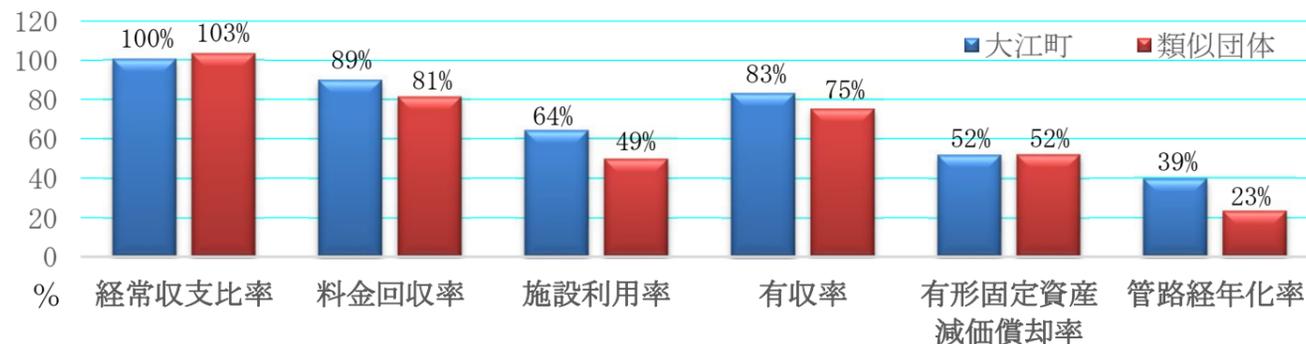


図1 令和6年度 水道事業の経営状況の比較

第3章 将来の事業環境

- 将来の事業環境に備えて確実に考慮すべき事象は、人口減少に起因した上下水道組織の人員減少および料金収入減少。並びに施設老朽化に起因する施設の価値減である。資産管理における大江町の人材・資産・資金の見通しと目標を整理する。



- 事業に係る工事、事務作業を継続するため現状の人員体制の維持が必要である（人材）
- 定期点検による維持管理や老朽化対策への投資で機能保全を図る必要がある（資産）
- 人口減少による使用料収入減少を見越して適正な収入の確保が必要である（資金）

第4章 経営課題と経営改善に向けた取組み

- 大江町における基本方針を定めて将来の事業環境の課題と改善への取組みの整理を行った。

【基本方針】
安心・安全な飲料水の安定提供
大江町水道事業地域水道ビジョンより

【施策の方向と改善への取組み】

- 経営基盤の強化と計画的な事業の推進
効果的な整備計画 計画的な施設高水準化 情報化
- 安心・安全な給水の確保
浄水処理施設の高度化 水質管理適正化
- 安定した給水の確保と緊急対策の充実
老朽化対策 水源多様化 緊急時対策 応急復旧計画
- 水道サービスの充実
継続的情報開示 サービス水準の向上

【経営課題の整理】

- 人口減少に伴う給水量、収入の減少
- 給水原価と供給単価の適正化の検討
- 資産維持のための財源確保と効率化
- 受水量の見直しおよびコストの削減
- 計画的な施設整備と資金の活用

第5章 投資・財政計画の策定

- 将来必要となる投資と財源の試算を行い、収支が均衡するように計画の策定を行った。

「投資」における目標 『老朽化した管路の計画的更新』

- 水道施設は点検と予防保全を目的とした計画的な修繕改築を行い機能維持を図る。
- 管路は年間管路全体の1%の割合で老朽化した管路の更新を行う。
- 現在の投資計画では令和8年度～令和38年度までに概算事業費約20億円が必要となる。
- 維持管理に係る経常経費は人材の維持と近年の物価上昇率を踏まえて試算している。

「財源」における目標 『料金回収率の維持』

- 財源は国庫補助金及び公営企業債を活用しながら、料金回収率を一定水準以上に保つことで繰入金を抑制しつつ財源の確保及び経営の健全化を目指す方針とする。
- 財源確保には経営効率化や投資最適化も重要であるが今後の予測を踏まえると料金改定の検討も行う必要がある。現状90%程度の料金回収率を仮に令和12年度、令和17年度で100%と設定して料金改定を行った場合の試算を今回の投資・財政計画に採用している。

第6章 投資・財政計画に未反映の取組や今後検討予定の取組

- 山形県水道事業広域連携検討会にて、広域化について継続的な検討が行われている。
- 民間企業との連携、施設の能力及び規模の見直しについて今後検討する予定である。

第7章 経営戦略の事後検証と進捗管理

- 経営戦略はPDCAサイクルを活用した定期的な見直しにより計画の改善を行う。
- 料金回収率の改善には有収水量確保、維持管理効率化、料金適正化が必要である。